

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
165	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名（原題／訳）	
Alcohol and STI risk: Evidence from a New Zealand longitudinal birth cohort. アルコールと性行為感染：ニュージーランド出生縦断コホートからのエビデンス	
執筆者	
Joseph M. Boden, David M. Fergusson, L. John Horwood	
掲載誌（番号又は発行年月日）	
Drug and Alcohol Dependence 113 (2011) 200–206	
キーワード	
飲酒、性行為感染（STI）、縦断研究、固定効果回帰	
<b>要 旨</b> <b>目的：</b> 青少年から若年成人期における飲酒と性行為感染（STI）との関連を検証すること。 <b>方法：</b> 1,265 人のニュージーランド生まれの個人から健康と成長に関するコホートを 30 年間前向き追跡した。15 歳から 30 歳にかけてのアルコール摂取頻度およびアルコール関連障害に関する症状の数および 14 歳から 30 歳にかけて STI の率などを測定した。アルコールと STI リスクとの関連の検討において観察されない交絡を考慮するために観察された時間変動性共変数因子（time-dynamic covariate factor）によって強化された conditional fixed effect 回帰モデルを用いた。 <b>結果：</b> 飲酒行動が増えることにより STI リスクが高まるという明瞭な関連傾向が一貫して認められた。観察されない交絡因子および時間変動性共変数因子を調整するとこれらの関連の強さは小さくなったものの、統計学的有意性（ $p < .05$ ）は保たれていた。 <b>結論：</b> 本研究の結果は、アルコール摂取およびアルコール濫用や依存の症状レベルの増加が STI 曝露リスクを上昇させるという因果関係の存在を示唆する。飲酒行動と STI とどちらのリスクも増加させる共通因子によって、両者（飲酒行動と STI）の関連が全て説明できる、という証拠はほとんどない。	